

出雲商工会議所管内 業種別景況（令和4年1月～3月期）

《全業種》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和3年1～3月）と比べた 今期（令和4年1～3月）の状況				前期（令和3年10～12月）と比べた 今期（令和4年1～3月）の状況				今期（令和4年1～3月）と比べた 来期（令和4年4～6月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	25.9	31.0	43.1	△ 17.2	17.2	17.2	65.5	△ 48.3	34.5	36.2	29.3	5.2
2 採算	15.5	41.4	43.1	△ 27.6	13.8	39.7	46.6	△ 32.8	24.1	39.7	36.2	△ 12.1
3 仕入単価	69.0	31.0	0.0	69.0	62.1	34.5	3.4	58.6	70.7	27.6	1.7	69.0
4 従業員数					3.6	89.3	7.1	△ 3.6	8.9	85.7	5.4	3.6
5 資金繰り					7.0	70.2	22.8	△ 15.8	10.5	73.7	15.8	△ 5.3

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		13.8	37.9	48.3		-34.5		22.4	53.4		24.1	-1.7		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	43.5	11.3	4.8	59.7	8 設備店舗の狭小・老朽化	8.1	6.5	8.1	22.6
2 大企業進出による競争激化	0.0	4.8	1.6	6.5	9 取引条件の悪化	0.0	1.6	1.6	3.2
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	1.6	1.6	10 事業資金の確保難	1.6	3.2	11.3	16.1
4 原材料高及び不足	17.7	29.0	9.7	56.5	11 需要の停滞	11.3	16.1	11.3	38.7
5 在庫製品・商品の過剰	3.2	0.0	0.0	3.2	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	1.6	1.6
6 人手不足	6.5	6.5	9.7	22.6	13 その他	1.6	3.2	0.0	4.8
7 人件費の増加	0.0	0.0	6.5	6.5	無回答	6.5	17.7	32.3	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

《製造業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年1~3月)と比べた 今期(令和4年1~3月)の状況				前期(令和3年10~12月)と比べた 今期(令和4年1~3月)の状況				今期(令和4年1~3月)と比べた 来期(令和4年4~6月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	28.6	14.3	57.1	△ 28.6	42.9	14.3	42.9	0.0	28.6	42.9	28.6	0.0
2 採算	14.3	14.3	71.4	△ 57.1	42.9	14.3	42.9	0.0	28.6	57.1	14.3	14.3
3 仕入単価	85.7	14.3	0.0	85.7	85.7	14.3	0.0	85.7	85.7	14.3	0.0	85.7
4 従業員数	/	/	/	/	0.0	100.0	0.0	0.0	14.3	71.4	14.3	0.0
5 資金繰り	/	/	/	/	14.3	42.9	42.9	△ 28.6	14.3	71.4	14.3	0.0

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		28.6	42.9	28.6		0.0		28.6	28.6		42.9	△ 14.3		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	55.6	11.1	0.0	66.7	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	0.0	33.3	33.3
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	22.2	22.2
4 原材料高及び不足	0.0	55.6	11.1	66.7	11 需要の停滞	11.1	11.1	0.0	22.2
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	11.1	0.0	0.0	11.1	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	0.0	11.1	11.1	無回答	22.2	22.2	22.2	—

注) 「全体」= (1位+2位+3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- ・ペーパーレス化の加速により印刷物の需要減少。デジタルコンテンツに注力。
- ・日本酒の輸出の引き合いが増加。
- ・小麦粉等原料値上げが続く。
- ・原材料、送料の値上げに伴う、売価の値上げで売れ行きに不安。

- ・求人しても応募がなく、派遣、シルバー人材センターで対応。

《建設業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年1~3月)と比べた 今期(令和4年1~3月)の状況				前期(令和3年10~12月)と比べた 今期(令和4年1~3月)の状況				今期(令和4年1~3月)と比べた 来期(令和4年4~6月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	37.5	37.5	25.0	12.5	37.5	25.0	37.5	0.0	37.5	50.0	12.5	25.0
2 採算	12.5	50.0	37.5	△ 25.0	25.0	62.5	12.5	12.5	25.0	50.0	25.0	0.0
3 仕入単価	87.5	12.5	0.0	87.5	62.5	37.5	0.0	62.5	87.5	12.5	0.0	87.5
4 従業員数	/	/	/	/	0.0	100.0	0.0	0.0	12.5	87.5	0.0	12.5
5 資金繰り	/	/	/	/	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		25.0	62.5	12.5		12.5		50.0	50.0		0.0	50.0		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	0.0	25.0	0.0	25.0	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	12.5	0.0	12.5
2 大企業進出による競争激化	0.0	12.5	0.0	12.5	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	12.5	12.5
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	0.0	0.0
4 原材料高及び不足	50.0	12.5	12.5	75.0	11 需要の停滞	12.5	0.0	0.0	12.5
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	37.5	12.5	12.5	62.5	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	0.0	12.5	12.5	無回答	0.0	25.0	50.0	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- ・技術者、現場労働者不足。
 - ・材料費の値上がり、入手難。
 - ・今後の景気低迷を予測。受注確保が課題。
 - ・リフォーム需要は安定的にある。
 - ・新築は材料等の入手難により建設が難しい状況。
- ・依頼先がコロナの影響を受け、作業が中止。
 - ・海外からの部品供給遅延。地域での協体制度の構築必要。
 - ・電気通信業界の工事件数減少傾向。多方面対応で受注確保に努める。

《卸 ・ 小 売 業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年1～3月)と比べた 今期(令和4年1～3月)の状況				前期(令和3年10～12月)と比べた 今期(令和4年1～3月)の状況				今期(令和4年1～3月)と比べた 来期(令和4年4～6月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	31.6	42.1	26.3	5.3	15.8	31.6	52.6	△ 36.8	31.6	26.3	42.1	△ 10.5
2 採算	26.3	42.1	31.6	△ 5.3	10.5	52.6	36.8	△ 26.3	21.1	31.6	47.4	△ 26.3
3 仕入単価	57.9	42.1	0.0	57.9	52.6	36.8	10.5	42.1	57.9	36.8	5.3	52.6
4 従業員数					5.3	89.5	5.3	0.0	5.3	94.7	0.0	5.3
5 資金繰り					5.3	78.9	15.8	△ 10.5	10.5	78.9	10.5	0.0

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		15.8	42.1	42.1		-26.3		15.8	68.4		15.8	0.0		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	36.8	0.0	15.8	52.6	8 設備店舗の狭小・老朽化	21.1	10.5	0.0	31.6
2 大企業進出による競争激化	0.0	10.5	0.0	10.5	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	5.3	5.3	10 事業資金の確保難	5.3	5.3	10.5	21.1
4 原材料高及び不足	15.8	21.1	5.3	42.1	11 需要の停滞	5.3	26.3	15.8	47.4
5 在庫製品・商品の過剰	10.5	0.0	0.0	10.5	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	5.3	5.3
6 人手不足	0.0	10.5	15.8	26.3	13 その他	5.3	5.3	0.0	10.5
7 人件費の増加	0.0	0.0	10.5	10.5	無回答	0.0	10.5	15.8	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・企業の制服の更新件数減少。業績が良く従業員数の多い企業はオリジナル性のある制服を採用。
- ・訪問営業に制限があり、新規開拓が難しい。
- ・資材、製品不足は今後も続く見込み。余剰在庫確保でキャッシュフロー低下。
- ・電気設備の投資需要の減少。
- ・建設資材の高騰と不足が売上に影響。
- ・コロナ前より仕入増、在庫過多。
- ・イベント開催できず、お客様と接する時間減少。
- ・若者の新聞離れ

- ・送料無料で通販に重点を置く店の増加。
- ・コロナが終息しテイクアウト需要が落ち着いたのち、カフェ営業、ネット販売開始。
- ・据置期間終了。返済開始による負担増。
- ・中食需要増に伴う冷凍食品需要増に対応し、冷凍ケース追加で取扱点数を増加。
- ・半導体不足で海外工場生産品は2～6ヶ月待ち。品不足が売上に影響。
- ・ウクライナ情勢による原油高騰。

《サービス業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年1～3月)と比べた 今期(令和4年1～3月)の状況				前期(令和3年10～12月)と比べた 今期(令和4年1～3月)の状況				今期(令和4年1～3月)と比べた 来期(令和4年4～6月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	30.8	23.1	46.2	△ 15.4	7.7	7.7	84.6	△ 76.9	53.8	30.8	15.4	38.5
2 採算	15.4	53.8	30.8	△ 15.4	7.7	38.5	53.8	△ 46.2	23.1	61.5	15.4	7.7
3 仕入単価	61.5	38.5	0.0	61.5	61.5	38.5	0.0	61.5	53.8	46.2	0.0	53.8
4 従業員数					7.7	76.9	15.4	△ 7.7	7.7	76.9	15.4	△ 7.7
5 資金繰り					7.7	61.5	30.8	△ 23.1	15.4	61.5	23.1	△ 7.7

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		7.7	38.5	53.8		-46.2		30.8	46.2		23.1	7.7		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	57.1	7.1	0.0	64.3	8 設備店舗の狭小・老朽化	7.1	0.0	14.3	21.4
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	7.1	7.1	9 取引条件の悪化	0.0	7.1	0.0	7.1
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	14.3	14.3
4 原材料高及び不足	14.3	21.4	7.1	42.9	11 需要の停滞	14.3	21.4	7.1	42.9
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	0.0	7.1	7.1	14.3	13 その他	0.0	7.1	0.0	7.1
7 人件費の増加	0.0	0.0	0.0	0.0	無回答	7.1	28.6	42.9	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・原材料不足による商品納入遅延。（中国・ベトナムで部品製造）
- ・介護施設など取引先への入室規制による、新規情報の入手難。
- ・コロナでゲストハウス需要の減少。
- ・旅行需要の停滞。

- ・一棟貸のバケーションステイタイプの宿泊、グランピングはコロナ禍でも需要回復が早くなる傾向。
- ・マクロツリーズム需要を喚起する広告宣伝の強化。

《 飲 食 業 》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年1~3月)と比べた 今期(令和4年1~3月)の状況				前期(令和3年10~12月)と比べた 今期(令和4年1~3月)の状況				今期(令和4年1~3月)と比べた 来期(令和4年4~6月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上	0.0	27.3	72.7	△ 72.7	0.0	0.0	100.0	△ 100.0	18.2	45.5	36.4	△ 18.2
2 採算	0.0	36.4	63.6	△ 63.6	0.0	18.2	81.8	△ 81.8	27.3	9.1	63.6	△ 36.4
3 仕入単価	72.7	27.3	0.0	72.7	63.6	36.4	0.0	63.6	90.9	9.1	0.0	90.9
4 従業員数					0.0	88.9	11.1	△ 11.1	11.1	88.9	0.0	11.1
5 資金繰り					10.0	60.0	30.0	△ 20.0	10.0	60.0	30.0	△ 20.0

注) ↑ 増加・上昇・過剰・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・不足・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		0.0	9.1	90.9		-90.9		0.0	54.5		45.5	-45.5		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	58.3	25.0	0.0	83.3	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	8.3	0.0	8.3
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	8.3	8.3	16.7
4 原材料高及び不足	16.7	41.7	16.7	75.0	11 需要の停滞	16.7	8.3	25.0	50.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	0.0	0.0	8.3	8.3	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	0.0	0.0	0.0	無回答	8.3	8.3	41.7	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- ・ 外食控え。 ・ 感染対策するも積極的集客は困難。
- ・ 結婚後の食事会需要に動きが始めた。
- ・ 会議等での仕出し需要は戻りつつあるが、来店客は依然少ない。
- ・ 今後の仕入価格の状況次第で値上げを検討。
- ・ 商品供給不足による新車納品遅れ、中古車は価格高騰。ともに販売が難しい状況。商品販売ではなく、技術販売シフトしていく計画。
- ・ イベント減少で髪切り減少。マスクに合う髪型や、足ネイルなどカット以外の提案。
- ・ コロナ以降新規客増。郊外店のため来店数に変化なし。2次会に行かないためか、来店者の滞在時間が長くなる傾向。
- ・ 持ち帰りなど店の宣伝のために始めた SNS 効果は大きく、若いお客様が増えた一方、家族連れは減少。
- ・ 仕入価格等上昇に加え、コロナによる売上減少で最悪な方向へ向かっている。
- ・ 各種値上がりによりお客様の出足も悪化。 ・ 事業復活支援金後、給付金制度がなければ資金繰り悪化。
- ・ 消費者のネット購入増加により、販売減少。